

長野県蘇南高等学校 総合学科設置10周年。 学校創立65周年

Frontier
Spirit

65年の歩み

昭和27年12月8日	読書、吾妻、田立、山口、神坂の五ヶ村組合立高等学校として設置することに決定
昭和28年3月16日	初代校長長内秀雄発令
昭和28年4月15日	開校式（読書中学校一仮校舎にて） 第1回入学式
昭和29年4月13日	建築途中の新校舎に移転
昭和30年8月4日	自前障校庭作業開始
昭和31年2月9日	校歌制定
昭和32年4月1日	県立完全寄宿
昭和37年4月1日	商業科設置
昭和38年4月1日	電気科設置
昭和38年5月19日	創立10周年記念式典
昭和43年9月12日	50メートルプール竣工
昭和57年9月9日	商業科・家庭科棟完成
昭和63年10月30日	現役生改築記念式典
平成3年6月9日	大体育館落成式典
平成16年10月18日	創立50周年記念式典
平成21年4月1日	総合学科設置
平成25年7月12日	新工業科棟竣工
平成30年10月20日	総合学科設置10周年・創立65周年記念式典挙行政

長野県蘇南高等学校 生徒会長
松原 牧志



蘇南高校総合学科10周年という記念すべき年に生徒会長を務めることができ、大変嬉しく思います。私は、総合学科の一番の特徴は「選択すること」にあると思います。自分の今と未来を見つめて、系列や教科・科目を選択する。現代を生き抜いていくことは、選択の連続です。この学校で選択することの難しさや大切さを学びました。

蘇南高校での学びはどれも充実していて雰囲気もいいです。例えば、先生と生徒の関係、生徒同士の関係が近いです。本校は若い先生方が多く、生徒との距離が近いと思います。生徒に寄り添って、じつりと指導してくださいます。質問すると、分かるまでいつまでも説明してくれます。また、中津川市の九つの中学校から進学できるため、長野県はもちろん岐阜県の友人もたくさんできました。お互いに良い影響を与えていることができていると思います。総合学科10周年という新たな節目を経て、蘇南高校が学ぶ者にとって更に良いものになることを願っています。

長野県蘇南高等学校長
小幡 正樹



本校は、昭和28年に木曾谷南部五ヶ村の組合立として創立され、今までに9千余名の有為な人材を国内外に輩出してきました。創立時から変わらぬ職責を広く広げようという立脚校舎は、開拓者精神を抱いて飛び立つ若人のシンボルとして、現在も卒業生、地域住民の皆様に見られています。

平成21年に総合学科に転科してからは、総合的な学習の時間及びその集大成ともいえる総合研究発表に力を入れ、課題解決型学習による主体的な学習を重視するに至りました。加えて、キャリア教育の深化、系列をまたいだ科目選択等により、自らの進路を自ら切り拓く生徒の主体性を伸長させる教育活動へと大きく転換を図りました。

AIの進化、IoTの進展により激変が予想される時代のとなりまわが、本校で学んだことを基礎にいかなる困難にも立ち向かっていける逞しい若人を育てていくことが本校の使命です。今後とも「蘇南」の発展にご理解とご協力をお願い申し上げます。

総合学科設置10周年・学校創立65周年
記念事業実行委員長
樋口 信雄



木曾谷に過疎化の波が押し寄せた10年前、蘇南高校の存続を目指して、総合学科制を導入してからの10年が経ちました。蘇南を思う多くの関係者の皆さんのご協力とご理解により、記念式典が挙行される運びとなり、心から感謝を申し上げます。地域住民の教育に対する熱意が実り、長野県の県境に購買を拡げて立っつ学舎で、開拓者の魂と尚学の道の教えを、創立以来65年間建学の精神として守りながら、新たに産業社会と人間形成を目指して総合学科を設置し、キャリア教育を実施して10年、ようやく地域に理解されたいきました。

この間、県教委をはじめ地元市町村協議会や関係者の皆様のご支援をいただきからお礼を申し上げます。又、子供達を熱心に教えていただいた先生方に厚く感謝します。五木生い茂る蘇峰山河の天白台と共に学ぶ喜びがいつまでも続くことを願ひ、長野県の県境に蘇南ありと言われた学校になることを期待しながら、式典を迎えたいと思っております。

記念式典

期 日 / 平成30年10月20日(土)【受付:8時20分~9時】
 会 場 / 長野県蘇南高等学校 体育館
 記念式典 / 9時30分~10時45分
 記念講演 / 11時~12時10分
 講 師 / 須野 昌隆氏
 演 題 / 1. 働く楽しさ 2. 変わる物流と未来!
 祝 賀 会 / 12時40分~14時30分
 会 場 / 南木會館 大ホール
(本校9年生 元西澤運輸株式会社社政務役員)

生徒校舎

入学式にて伝統の草履式奉納があります。入学生全員が蘇南生としての決意を込めます。

蘇南祭

文化祭での一場面、学年全員で団陣を組む姿。少人数のよさはこの団陣力にも現れています。

知心体

日々の練習を積み重ね、平成24年より7年連続インターハイに出場しています。

総合研究

生徒自身がテーマを決め1年かけて研究します。12月の研究発表会は高校での学びの集大成の場です。